

臨牀 消化器内科 第 34 卷 ● 総目次

Vol. 34 / No. 1 ~ No. 13
(2019 年 1 月号 ~ 12 月号)

特 集

- | | | | |
|-------|--|--------|----------------------------------|
| No. 1 | 血流障害と消化管疾患 | No. 7 | 炎症性腸疾患診療の update—診断・治療の最新知見〔増刊号〕 |
| No. 2 | 胆嚢癌診療の現況 | No. 8 | 腹膜炎・腹水に対する診療の進歩 |
| No. 3 | CT colonography 2019—今日までの進歩と現状, そして大腸がん検診への展開 | No. 9 | 大腸ポリープ取り扱いの Up to Date |
| No. 4 | 肥満と消化器 | No. 10 | 消化器ステント留置 |
| No. 5 | 肝と免疫 2019 | No. 11 | 胃癌診療 2019—現状と課題 |
| No. 6 | リンチ症候群と遺伝性消化管ポリープ | No. 12 | 遭遇の機会が増えた IPMN/膵嚢胞—現状と課題 |
| | ポーシス | No. 13 | 慢性胃炎を再考する |

● Vol. 34 No. 1 血流障害と消化管疾患

巻頭言	平田 一郎	5~6
1. 血流障害と消化管疾患の疾患概念	大川 清孝・青木 哲哉 佐野 弘治・宮野 正人 小野 洋嗣・中内 脩介	7~13
2. 虚血性腸病変		
(1) 虚血性大腸炎	小林 広幸・蔵原 晃一 瀧上 忠彦	15~26
(2) 虚血性小腸炎	梅野 淳嗣・平野 敦士 鳥巢 剛弘・江崎 幹宏	27~34
(3) 閉塞性大腸炎	園田 洋史・野澤 宏彰	35~40
(4) 非閉塞性腸管虚血症(NOMI)	勅使河原勝伸・川浦 洋征 五木田昌士・清田 和也 沖 彰	41~46
(5) 上腸間膜動脈(SMA)塞栓症/血栓症	高橋 哲也・中山 祐介 武居 哲洋	47~52

(6) 腸間膜静脈硬化症	久部 高司・大津 健聖 平井 郁仁・八尾 建史 植木 敏晴・岩下 明德	53~58
3. 血 管 炎		
(1) IgA 血管炎による消化管病変	岡田圭次郎・谷 泰弘 三長 孝輔・山下 幸孝	59~65
(2) 血流障害を伴う膠原病と消化管病変	松本 啓志・大澤 元保 村尾 高久・近石 昌也 笹平 百世・塩谷 昭子	67~72
4. そ の 他		
(1) 宿便性潰瘍	長坂 光夫・大宮 直木	73~77
(2) 放射線性腸炎	池之山洋平・千野 晶子 五十嵐正広・井出 大資 斎藤 彰一	79~85
(3) アミロイドーシス	蔵原 晃一・河内 修司 八坂 弘樹・大城 由美	

檜沢 一興・小林 広幸	
江崎 幹宏	87~94
(4) IBD と血流障害	
猿田 雅之	95~100
●Vol. 34 No. 2 胆嚢癌診療の現況	
巻頭言	露口 利夫 125~126
1. 胆嚢癌の疫学	
(1) 日本と世界の発生動向	
澤田 雄・松山 隆生	
戴下 泰宏・本間 祐樹	
熊本 宜文・遠藤 格	127~132
(2) 危険因子	
伊藤 啓・越田 真介	
菅野 良秀・小川 貴央	
枡 かつお・野田 裕	133~138
2. 胆嚢癌の病理	
佐々木素子	139~145
3. 胆嚢癌の診断	
(1) 診断体系と鑑別診断	
田中 浩敬・川嶋 啓揮	
大野栄三郎・石川 卓哉	
酒井 大輔・廣岡 芳樹	147~153
(2) 腹部超音波	
蘆田 玲子	155~164
(3) 超音波内視鏡	
藤田 曜・良沢 昭銘	
水出 雅文・谷坂 優樹	
原田 舞子・南 一洋	
小川 智也・露木 和彬	
加藤 里絵	165~170
(4) CT	
伊原 諒・植木 敏晴	
平塚 裕晃・畑山 勝子	
永山林太郎・丸尾 達	
野間栄次郎	171~178
(5) MRI	
松浦紘一郎・森阪 裕之	
市川 智章	179~185
4. 胆嚢癌の治療	
(1) 手術	
青木 琢・窪田 敬一	187~192
(2) 化学療法	
黒澤 貴志・岡野 尚弘	
長島 文夫・古瀬 純司	193~198
5. トピックス	
(1) 胆嚢摘出後に判明した胆嚢癌の取り扱い	
中郡 聡夫・矢澤 直樹	
増岡 義人・益子 太郎	199~203
(2) 早期の胆嚢癌はあるのか？	
石原 慎・伊東 昌広	
浅野 之夫・堀口 明彦	205~209

●Vol. 34 No. 3 CT colonography 2019—今日までの進歩と現状、そして大腸がん検診への展開

巻頭言	永田 浩一	237~238
1. 大腸 CT 検査の進歩、現状と今後の展望		
歌野 健一・根本 大樹		
愛澤 正人・五十畑則之		
遠藤 俊吾・富樫 一智		239~244
2. 大腸がん検診・精検における CT colonography の診断精度の現況		
馬嶋健一郎・藤原 正則		
村木 洋介		245~251
3. CT colonography—機器・技術の最前線		
木島 茂喜・歌野 健一		
佐々木崇洋・金澤 英紀		
藤井 裕之・杉本 英治		253~257
4. CT colonography—検査法を巡って		
(1) 基本検査法	北井 孝明	259~264
(2) 低線量撮影法		
尾田済太郎・田口奈留美		
横田 康宏・伊牟田真功		
土亀 直俊・山下 康行		265~273
(3) 標準的読影法と読影レポート		
龍 泰治・稲邑 克久		
河合 博志・太田 尚宏		
田畑 敏		275~282
5. CT colonography の有用性を巡って		
(1) ハイボリュームセンターの立場から		
服部 昌志・片山 信		
松崎 一平・山崎 通尋		
末松 誠司・中澤 三郎		283~288
(2) 地域医療の立場から—高齢者に対する精密検査法としての CT colonography の有用性		
八坂 貴宏・安田 貴明		
山口 将太・本田 徹郎		289~294
(3) 検診受診率向上の観点から		
野崎 良一・有馬 浩美		
松本 徹也・前崎 孝之		
伊牟田秀隆・山田 一隆		295~303
6. CT colonography の診断限界		
(1) 実地臨床の立場から		
松岡 正樹・清水 徳人		
伊奈 純平		305~310
(2) 表面型病変の検討から		
富樫 一智・歌野 健一		
愛澤 正人・根本 大樹		
五十畑則之・遠藤 俊吾		311~317
7. CT colonography の標準化への課題		
鈴木 康元		319~324
8. CT colonography の大腸がん検診・精密検査への展開—今後のロードマップを巡って		
永田 浩一・高橋 則晃		

金澤 英紀・松本 啓志 松田 尚久・斎藤 博	325～329
●Vol. 34 No. 4 肥満と消化器	
巻頭言	屋嘉比康治 349～350
1. 肥満の基礎	
(1) 肥満と肥満症：定義，疫学，診断と問題点	高木章乃夫・山本 和秀 351～356
(2) 肥満の発症機序	浅原 哲子 357～364
(3) 食欲調節機序	河村菜実子・勝浦 五郎 浅川 明弘 365～370
2. 肥満と全身性疾患	
(1) 肥満と肥満症・メタボリックシンドローム	宇野 健司 371～376
(2) 肥満とがん	武藤 倫弘・藤井 元 中釜 斉 377～382
3. 肥満と消化器疾患	
(1) 肥満と食道疾患—肥満と GERD の関連を 中心に	田邊 智英・岩切 勝彦 383～387
(2) 肥満と <i>Helicobacter pylori</i>	鎌田 智有・角 直樹 楠 裕明・眞部 紀明 高尾 俊弘・春間 賢 389～394
(3) 肥満と肝疾患	戸張 真紀・橋本 悦子 395～402
(4) 肥満と胆嚢疾患	大屋 敏秀・田妻 進 403～408
(5) 肥満と膵疾患	下瀬川 徹 409～415
(6) 肥満と大腸癌	日暮 琢磨・中島 淳 417～422
(7) 肥満と腸内細菌	安藤 朗 423～429
4. 肥満の治療	
(1) 食事・運動療法—メタボリック症候群の治 療を目的とした肥満解消の食事療法・運動 療法	山崎 聡・尾形 絵美 益崎 裕章 431～436
(2) 薬物療法	中里 雅光 437～442
(3) 外科・内視鏡治療	網木 学・関 洋介 笠間 和典 443～447
●Vol. 34 No. 5 肝と免疫 2019	
巻頭言	滝川 一 469～470
1. 総論—Lymphoid organ としての肝臓	原田 憲一 471～480

2. 自己免疫性肝炎	
(1) 自己免疫性肝炎の疫学と診断	田中 篤 481～486
(2) 自己免疫性肝不全の実態	持田 智 487～493
(3) 自己免疫性肝炎の治療と予後	大平 弘正・阿部 和道 高橋 敦史 495～501
3. 原発性胆汁性胆管炎 (PBC)	
(1) 原発性胆汁性胆管炎の疫学と診断	城下 智 503～512
(2) 原発性胆汁性胆管炎発症の分子機序	下田 慎治 513～520
(3) 原発性胆汁性胆管炎の治療と予後	上野 義之 521～526
4. B 型肝炎と免疫	
(1) B 型肝炎ウイルスに対する防御的免疫反 応	由雄 祥代・考藤 達哉 527～536
(2) HBV ワクチンによる B 型肝炎治療	吉田 理・日浅 陽一 537～542
5. 肝細胞癌治療と免疫	
(1) 肝細胞癌に対する免疫チェックポイント 阻害薬開発の現況	工藤 正俊 543～554
(2) 遺伝子改変 T 細胞を用いた肝細胞癌免疫 療法	水腰英四郎・中河 秀俊 玉井 利克・金子 周一 555～562
●Vol. 34 No. 6 リンチ症候群と遺伝性消化管ポリポーシス	
巻頭言	富田 尚裕 589～590
1. 総 論	
(1) 遺伝性腫瘍の概要	菅野 康吉 591～595
(2) 癌の遺伝カウンセリング	新井 正美 596～605
2. 遺伝性消化管ポリポーシス	
(1) 家族性大腸腺腫症の臨床—内科的立場か ら	石川 秀樹 607～611
(2) 家族性大腸腺腫症の臨床—外科的立場か ら	山口 達郎 612～618
(3) <i>MUTYH</i> 関連ポリポーシス	田村 和朗 619～627
(4) 若年性ポリポーシス	川崎 啓祐・鳥谷 洋右 永塚 真・梁井 俊一 赤坂理三郎・大泉 智史 上杉 憲幸・中村昌太郎 菅井 有・松本 主之 628～632
(5) Cowden 症候群	寺前 智史・田中久美子

岡本 耕一・佐藤 康史 六車 直樹・高山 哲治	633～639	7 便中カルプロテクチン・ヘモグロビン検査 松岡 克善	768～771
(6) Peutz-Jeghers 症候群 坂本 博次・相良 裕一 矢野 智則・山本 博徳	640～646	IV 炎症性腸疾患の診断 1 潰瘍性大腸炎の診断基準 平井 郁仁	774～778
3. リンチ症候群 (1) リンチ症候群の臨床—内科的立場から 中島 健	647～652	2 クローン病の診断基準 平井みなみ・梁井 俊一 松本 主之	779～783
(2) リンチ症候群の臨床—外科的立場から 石田 秀行・近 範泰 伊藤 徹哉・山本 梓 鈴木 興秀・石橋敬一郎	653～659	3 潰瘍性大腸炎とクローン病との分類不能症 例 遠藤 豊・梅沢翔太郎 鍋田 陽昭・森川 吉英 吉田 篤史	784～787
4. 遺伝学的検査とその臨床応用 (1) リンチ症候群関連の遺伝学的検査 江口 英孝・岡崎 康司	661～666	4 炎症性腸疾患における腸管・腸管外合併症 加藤 順・津田 早耶	788～793
(2) ミスマッチ修復機能欠損腫瘍に対する抗 PD-1 抗体薬を用いた治療 赤木 究	667～671	5 炎症性発癌とサーベイランス 畑 啓介・品川 貴秀 石原聡一郎	794～798
(3) 遺伝子パネルを用いた遺伝性腫瘍の遺伝 学的検査 後藤 政広・吉田 輝彦	672～679	V 炎症性腸疾患の内科治療 1 炎症性腸疾患治療指針・ガイドライン 中村 志郎・樋田 信幸 渡辺 憲治・宮嶋 孝子 横山 陽子・上小鶴孝二	800～806
●Vol. 34 No. 7 炎症性腸疾患診療の update—診断・治療の 最新知見		2 5-ASA (5-アミノサリチル酸) 製剤 櫻井 俊之・猿田 雅之	807～811
I 炎症性腸疾患の疫学 本邦における IBD の患者動向 西脇 祐司・村上 義孝	710～713	3 副腎皮質ステロイド 杉本 健	812～816
II 炎症性腸疾患の病因・病態 1 遺伝子関連 角田 洋一	716～721	4 免疫調節薬—アザチオプリン (AZA), 6-メ ルカプトプリン (6-MP) 鈴木 康平・長堀 正和 渡辺 守	817～821
2 炎症性腸疾患の病態 萩原 裕也・金井 隆典	722～727	5 免疫抑制薬—シクロスポリン, タクロリム ス 仲瀬 裕志	822～826
3 炎症性腸疾患と腸内細菌 安藤 朗	728～734	6 抗 TNF- α 抗体製剤—インフリキシマブ 伊藤 裕章	827～832
III 炎症性腸疾患の検査法 1 X 線検査 横山 薫	736～740	7 抗 TNF- α 抗体製剤—アダリムマブ 田中 浩紀・中村 健太 杉山 浩平・宮川 麻希 那須野正尚・本谷 聡	833～837
2 大腸内視鏡検査 岩男 泰	741～745	8 抗 TNF- α 抗体製剤—ゴリムマブ 山田 哲弘・松岡 克善 鈴木 康夫	838～841
3 小腸バルーン内視鏡検査 大塚 和朗・竹中 健人 鈴木 康平・長堀 正和 渡辺 守	746～750	9 抗 IL-12 p40 抗体—ウステキヌマブ 小林 拓	842～846
4 CT・MRI 渡辺 憲治・上小鶴孝二 横山 陽子・宮嶋 孝子 樋田 信幸・中村 志郎	751～755	10 JAK 阻害薬—トファシニブ 久松 理一	847～851
5 腹部超音波検査 中村 美咲・濱田 康彦 堀木 紀行・荒木 俊光 楠 正人	756～760	11 抗接着分子治療—ベドリズマブを中心に 本谷 聡・杉山 浩平 宮川 麻希・那須野正尚 田中 浩紀	852～857
6 炎症性腸疾患の病理検査 明本 由衣・田中 正則	761～767	12 抗菌薬療法 桂田 武彦・坂本 直哉	858～862

13	血球成分除去療法	山本 隆行・下山 貴寛 梅枝 覚	863～868
14	栄養療法	佐々木雅也・馬場 重樹	869～875
15	漢方薬	長沼 誠	876～881
16	内視鏡的拡張療法	辻川 知之・神田 暁博 大槻 晋士・高橋憲一郎 馬場 重樹	882～887
17	サイトメガロウイルス(CMV)腸炎	松浦 稔・山田 聡 本澤 有介・山本 修司 妹尾 浩	888～893
18	粘膜再生治療法	清水 寛路・鈴木 康平 岡本 隆一・渡辺 守	894～898
VI	炎症性腸疾患の外科治療		
1	炎症性腸疾患の外科治療	桑原 隆一・池内 浩基 内野 基	900～903
2	クローン病肛門病変の治療	二見喜太郎・東 大二郎 平野由紀子・林 貴臣 増井 友恵・竹下 一生	904～909
3	術後 pouchitis(回腸囊炎)の診断と治療	板橋 道朗・中尾紗由美 谷 公孝・番場 嘉子 小川 真平・山本 雅一	910～917
4	クローン病の術後再発と予防法	荒木 俊光・大北 喜基 近藤 哲・廣 純一郎 問山 裕二・楠 正人	918～925
VII	妊婦・小児の炎症性腸疾患の診療		
1	炎症性腸疾患患者の妊娠症例	渡辺知佳子・三浦総一郎 穂苅 量太	928～934
2	小児炎症性腸疾患に対する治療指針	余田 篤	935～943
VIII	トピックス		
1	大腸カプセル内視鏡	細江 直樹・宮永 亮一 高林 馨・長沼 誠 緒方 晴彦・金井 隆典	946～948
2	炎症性腸疾患診断における AI 導入の可能性	福原佳代子・緒方 晴彦	949～951
●Vol. 34 No. 8	腹膜炎・腹水に対する診療の進歩		
巻頭言		名越 澄子	965～966
1.	腹膜疾患の総論	宮原 良二・古川 和宏 藤城 光弘	967～970

2.	感染性腹膜炎・腹水の診療		
(1)	急性細菌性腹膜炎	金子 学・石原聡一郎	971～976
(2)	特発性細菌性腹膜炎	光井 洋	977～980
(3)	結核性腹膜炎	藤川 博敏・有間 修平 宇野 昭毅・三松 謙司 松岡 俊一・森山 光彦	981～988
(4)	骨盤腹膜炎	秋山 育美・甲賀かをり	989～991
(5)	内視鏡診療に伴う腹膜炎	大木亜津子・鶴見 賢直 橋本 佳和・長尾 玄 竹内 弘久・阿部 展次	993～1001
3.	悪性腫瘍に伴う腹膜炎・腹水の診療		
(1)	腹膜偽粘液腫	大谷 研介・合田 良政 永井 雄三・出口 勝也 清松 知充	1003～1010
(2)	消化管癌による癌性腹膜炎	吉田俊太郎・石神 浩徳 小池 和彦	1011～1017
(3)	膀胱癌による癌性腹膜炎	里井 壯平・山本 智久 山木 壮・小坂 久 廣岡 智・松井 陽一	1019～1023
(4)	婦人科癌による癌性腹膜炎	西尾 真	1025～1030
4.	肝性腹水の薬物療法	浅岡 良成・田中 篤	1031～1038
5.	腹水の非薬物療法		
(1)	腹腔-静脈シャント	新後閑弘章・権 勉成 齋藤 倫寛・徳久 順也 田中 貴志・前谷 容	1039～1044
(2)	腹水濾過濃縮再静注法(CART)	伊藤 哲也	1045～1048
●Vol. 34 No. 9	大腸ポリープ取り扱いの Up to Date		
巻頭言		工藤 進英	1073～1074
1.	5 mm 以下のポリープ		
(1)	経過観察を推奨する根拠が乏しいと考える立場で	竹内 洋司・七條 智聖	1075～1081
(2)	経過観察でもよいとする立場で	久部 高司・平野 昭和 八尾 建史・植木 敏晴 金城 健・岩下 明德	1082～1088
(3)	5 mm 以下でも治療すべき病変	三澤 将史・工藤 進英	1089～1094

(4) Cold forceps polypectomy と hot forceps polypectomy (hot biopsy) のメリット・デメリット	梶田 博史・米田 頼晃	1095～1101
2. 6 mm～10 mm のポリープ		
(1) Cold polypectomy を安全に施行するための術前診断	畑森 裕之・斎藤 彰一 井出 大資・千野 晶子 五十嵐正広	1105～1111
(2) Cold snare polypectomy と hot snare polypectomy のメリット・デメリット	中田 昂・栗林 志行 關谷 真志・田中 寛人 下山 康之・浦岡 俊夫	1112～1119
(3) Cold snare polypectomy と hot snare polypectomy の安全性と組織学的根治度	篠崎 聡	1120～1126
3. 10 mm, 11 mm 以上のポリープ		
(1) 10 mm 以上のポリープに対する cold snare polypectomy の是非	廣瀬 亮平・吉田 直久 伊藤 義人	1127～1132
(2) 11 mm 以上のポリープに対する Underwater EMR のメリット・デメリット	赤坂 智史・山階 武 岩坪 太郎・竹内 洋司 石田 永・上堂 文也	1133～1139
(3) 大きな有茎性ポリープの摘除	村元 喬・大圃 研 瀧田麻衣子・港 洋平 酒井 英嗣・松橋 信行	1140～1147
4. 無床施設でのポリープ摘除の実際		
(1) 無床施設でのポリープの取り扱い一適切かつ安全なポリープ摘除のために	野村 昌史・村上 佳世 三井 慎也	1149～1154
(2) 無床施設でのポリープの取り扱い—大腸内視鏡検査の質向上のための工夫	豊島 治・西澤 俊宏 崎谷 康佑・高橋 由至 吉田俊太郎	1155～1159
【コラム】“Resect and Discard” strategy	竹内 洋司・七條 智聖	1102～1103
●Vol. 34 No. 10 消化器ステント留置		
巻頭言—消化器ステントの現況と課題	前谷 容	1193～1196
1. 消化管ステント留置		
(1) 食道狭窄に対する内視鏡的ステント留置術	奥村 圭・矢野 友規	1197～1204
(2) 胃・十二指腸狭窄に対する内視鏡的ステント留置術	中井 陽介・高原 楠晃 木暮 宏史・伊佐山浩通 多田 稔・小池 和彦	1205～1210
(3) 輸入脚閉塞症に対する内視鏡的ステント留置術	竹内 弘久・下山 勇人 鶴見 賢直・橋本 佳和 大木亜津子・長尾 玄 阪本 良弘・須並 英二 正木 忠彦・森 俊幸 阿部 展次	1211～1220
(4) 大腸狭窄に対する内視鏡的ステント留置術	松田 明久・山田 岳史 松本 智司・小泉 岐博 進士 誠一・太田 竜 高橋 吾郎・原 敬介 吉田 寛	1221～1227
2. 胆膵ステント留置		
(1) 悪性肝門部胆管狭窄に対するドレナージ法	山本 恭史・金 俊文 矢根 圭・林 毅 高橋 邦幸・潟沼 朗生	1229～1237
(2) 悪性遠位胆管狭窄に対する胆道ドレナージ術	孝田 博輝・奥野のぞみ 桑原 崇通・羽場 真 水野 伸匡・原 和生	1238～1246
(3) 悪性胆管狭窄と十二指腸狭窄の併存	畑山 勝子・平塚 裕晃 伊原 諒・永山林太郎 丸尾 達・植木 敏晴	1247～1253
(4) 良性胆管狭窄に対する内視鏡的ステント留置術	福士 耕・入澤 篤志 土田 幸平・常見美佐子 陣内 秀仁・山部 茜子	1254～1261
(5) 急性閉塞性胆管炎の内視鏡的ドレナージ術	窪田 賢輔	1262～1269
(6) 良性膵管狭窄に対する内視鏡的膵管ステント留置術	岩崎 将・五十嵐良典 木村 祐介・山田 悠人 渡辺 浩二・吉本 憲介 宅間 健介・原 精一 岸本 有為・伊藤 謙 岡野 直樹	1270～1276
(7) 肝胆膵術後合併症に対するドレナージ法	鈴木 裕・松木 亮太	

小暮 正晴・中里 徹矢	
権藤 興一・渡邊 俊介	
土岐 真朗・森 俊幸	
阿部 展次・阪本 良弘	1277～1284
3. Interventional EUS によるステント留置	
木田 光広・渡辺 真郁	
黒須 貴浩・上原 一帆	
川口 佑輔・長谷川力也	
宮田 英治・金子 亨	
山内 浩史・奥脇 興介	
岩井 知久・今泉 弘	1285～1294
●Vol. 34 No. 11 胃癌診療 2019—現状と課題	
巻頭言	藤城 光弘 1313～1314
1. わが国の胃癌診療の現状と課題	
山下 裕玄・瀬戸 泰之	1315～1319
2. 胃がん臨床疫学の動向	
井上真奈美	1321～1328
3. 胃癌診断の現状と課題	
(1) 早期胃癌の内視鏡診断ガイドラインを巡って	
八尾 建史	1329～1332
(2) 胃癌内視鏡診断	
辻 陽介・永尾 清香	
小池 和彦	1333～1338
(3) 胃がん検診の新展開	
入口 陽介・小田 丈二	
水谷 勝・富野 泰弘	
山里 哲郎・山村 彰彦	1339～1345
(4) CT・MRI・PET-CT 検査	
中神 佳宏・石川 勉	1346～1351
4. 胃癌治療の現状と課題	
(1) 胃癌治療ガイドライン第5版を巡って	
佐野 武	1353～1358
(2) 内視鏡治療(EMR/ESD)	
塩月 一生・藪内 洋平	
小野 裕之	1359～1367
(3) 胃癌に対する腹腔鏡下手術の現状と展望	
阿部 展次・鶴見 賢直	
橋本 佳和・大木亜津子	
長尾 玄・竹内 弘久	1369～1376
(4) ロボット支援下手術の現状と問題点	
牛丸 裕貴・黒川 幸典	
西塔 拓郎・高橋 剛	
土岐祐一郎	1377～1383
(5) 開腹手術	
安福 至・吉田 和弘	
山口 和也・棚橋 利行	
今井 健晴・末次 智成	1384～1389
(6) 化学療法	
石川 将史・朴 成和	1390～1396
(7) 緩和療法	
山本 貴嗣	1397～1402

●Vol. 34 No. 12 遭遇の機会が増えた IPMN/膵嚢胞—現状と課題

巻頭言—粘液産生膵癌から IPMN へ—疾患概念の提唱と変遷がもたらしたもの—

山雄 健次 1433～1438

1. IPMN の基礎知識

(1) IPMN の疫学と分類

松原 三郎・水野 卓
多田 稔 1439～1444

(2) IPMN の病理

池田恵理子・福嶋 敬宜 1445～1451

2. IPMN/膵嚢胞の診療

(1) 国際診療ガイドラインによる診断とサーベイランスの現状と問題点

渡邊 雄介・大塚 隆生
森 泰寿・池永 直樹
仲田 興平・中村 雅史 1453～1459

(2) IPMN/膵嚢胞に対する US の工夫と最大活用

蘆田 玲子 1460～1465

(3) IPMN/膵嚢胞の CT, MRI 診断

石神 康生・中俣 彰裕
宜保 慎司・宮良 哲博
村山 貞之 1466～1475

(4) 悪性 IPMN と IPMN 併存膵癌の診断における EUS の役割

鎌田 研・原 茜
山雄健太郎・竹中 完
工藤 正俊 1476～1481

(5) ERCP による IPMN の悪性度診断

越田 真介・菅野 良秀
小川 貴央・枡 かおり
野田 裕・伊藤 啓 1482～1489

(6) 国内外における EUS-FNA の現状と嚢胞液解析を絡めた診断の展望

桑原 崇通・原 和生
水野 伸匡・羽場 真
奥野のぞみ・清水 泰博 1490～1494

(7) IPMN の外科的治療

廣野 誠子・山上 裕機 1495～1502

(8) IPMN を含む膵疾患診療における病診連携

花田 敬士・清水 晃典
横出 正隆・池田 守登
矢野 成樹・栗原 啓介 1502～1506

(9) 小膵嚢胞の観察法

笹平 直樹・武田 剛志
金田 遼・松山 真人
佐々木 隆・尾阪 将人 1507～1513

(10) IPMN/膵嚢胞はいつまで観察が必要か？

大山 博生・多田 稔
濱田 毅・中井 陽介
小池 和彦 1514～1517

|||||検査値の読み方(連載)|||||||

Vol. 34 No. 1

AP シヤント塞栓が著効した難治性腹水の 1 例
浅岡 良成・小池 和彦 101～106

Vol. 34 No. 2

劇症肝炎で発症したウイルソン病の 1 例
吉田 英雄 227～229

Vol. 34 No. 3

東京都内で感染し発症したワイル病の 1 例
三浦 英明 336～341

Vol. 34 No. 5

NASH との鑑別が困難であった自己免疫性肝炎
による肝硬変の 1 例
浅岡 良成・田中 篤
小池 和彦 576～582

Vol. 34 No. 6

A 型肝炎の 1 例
吉田 英雄 687～690

Vol. 34 No. 9

免疫チェックポイント阻害薬を使用している患
者の肝障害
近藤 泰輝・福田 遼
永江 真也・遠藤 希之
赤平 純一 1160～1164

Vol. 34 No. 11

γ -GT は敵か味方か？
水田 敏彦 1403～1408

Vol. 34 No. 12

HIV 感染患者に発生した急性 A 型肝炎の 1 例
魚嶋 晴紀・田中 賢明
日高 央・四柳 宏 1519～1523

|||||薬の知識(連載)|||||||

Vol. 34 No. 4

レンパチニブメシル酸塩(レンビマ[®])
上嶋 一臣・工藤 正俊 448～450

Vol. 34 No. 6

慢性便秘治療薬エロピキシバット(グーフィス[®])
中島 淳 681～686

Vol. 34 No. 8

慢性便秘症治療薬 モビコール[®] 配合内用剤(マク
ロゴール 4000 配合)
木下 芳一・大内佐智子

藤澤 貴史 1053～1056

Vol. 34 No. 9

ソホスブビル/ベルパタスビル配合錠(エプク
ルーサ[®])
竹原 徹郎 1176～1179

Vol. 34 No. 12

ベドリズマブ(エンタイビオ[®])
猿田 雅之 1524～1528

|||||手技の解説(連載)|||||||

Vol. 34 No. 1

Endocyto を使った内視鏡診断の実際：大腸
工藤 進英・加藤 一樹
森 悠一 107～111

Vol. 34 No. 2

Endocytoscopy を使った内視鏡診断の実際：胃
野田 啓人・貝瀬 満 215～220

|||||講 座(連載)|||||||

Vol. 34 No. 8

小児慢性特定疾病と消化管ポリポーシス
中山 佳子 1049～1052

Vol. 34 No. 9

家族性膵癌
松林 宏行・石渡 裕俊

佐藤 辰宣・福富 晃
上坂 克彦・浄住 佳美
小野 裕之 1180～1186

|||||Dr. 平澤の上部消化管内視鏡教室—この症例にチャレンジしてください(連載)|||||||

Vol. 34 No. 2

食道狭窄の1例

平澤 俊明・佐々木 隆
藤崎 順子・河内 洋
伊藤 崇彦・太田 一樹 210～214

Vol. 34 No. 4

多発する胃腫瘍

平澤 俊明・河内 洋
藤崎 順子・新井 正美 451～456

Vol. 34 No. 9

胃粘膜下腫瘍

平澤 俊明・中野 薫
河内 洋・藤崎 順子 1165～1170

Vol. 34 No. 11

診断に苦慮した胃粘膜下腫瘍様病変

平澤 俊明・並河 健
藤崎 順子・河内 洋 1415～1419

|||||[特別連載] 胃拡大内視鏡テクニック(連載)|||||||

Vol. 34 No. 4

第1章 上部消化管拡大内視鏡

八尾 建史 457～460

Vol. 34 No. 5

第2章 胃拡大内視鏡観察法(Black soft hood法)

八尾 建史 569～575

Vol. 34 No. 6

第3章 ビデオプロセッサの設定

八尾 建史 691～693

Vol. 34 No. 8

第4章 浸水観察(Water immersion technique)

八尾 建史 1057～1064

Vol. 34 No. 9

第5章 胃拡大内視鏡テクニックの基本(1)

八尾 建史 1171～1175

Vol. 34 No. 10

第5章 胃拡大内視鏡テクニックの基本(2)

八尾 建史 1301～1305

Vol. 34 No. 11

第5章 胃拡大内視鏡テクニックの基本(3)

八尾 建史 1421～1425

|||||学会だより|||||

Vol. 34 No. 2

JDDW2018 第22回 日本肝臓学会大会

松崎 靖司 186

Vol. 34 No. 3

JDDW2018 第96回 日本消化器内視鏡学会総会

福田 眞作 258

Vol. 34 No. 4

JDDW2018 第60回 日本消化器病学会大会

三輪 洋人 388

Vol. 34 No. 9

第105回 日本消化器病学会総会

茶山 一彰 1104

Vol. 34 No. 10

第97回 日本消化器内視鏡学会総会

太田 和寛・竹内 利寿
樋口 和秀 1300

|||||追悼|||||

Vol. 34 No. 13

岡 博先生のご逝去を悼んで

小池 和彦 1541

『臨牀消化器内科』編集委員会

編集委員：小池 和彦*, 五十嵐正広, 一瀬 雅夫, 杉山 政則, 藤城 光弘, 屋嘉比康治
(*：学術アドバイザー)

編集協力者：多田 正大, 樫田 博史

ゲストエディター：新井 正美(No. 6), 鈴木 康夫(No. 7), 笹平 直樹(No. 12), 村上 和成(No. 13)

歴代編集委員：岡 博(故人), 島津 久明(故人), 玉熊 正悦(故人), 棟方 昭博, 市倉 隆,
中村 孝司(故人), 丹羽 寛文(故人), 田尻 久雄